

現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和7年9月

（１）沖永良部島で奄美群島さとうきび生産振興対策協議会が開催

9月9日、沖永良部島で奄美群島さとうきび生産振興対策協議会が開催されました。室内検討では、沖永良部島におけるさとうきび増産計画の目標を達成したことについて、増収要因の検討・情報共有を行った他、各島のさとうきび生育状況について情報共有などを行いました。現地研修では、さとうきび高単収農家のほ場現地視察の他、受託組織の沖永良部農業開発組合の概要や料金について説明会を行いました。今年度もさとうきびが多収となるよう、農業普及課は関係機関と連携し農家支援を行います。



（２）与論町で糖業振興会生産振興大会が6年ぶりに開催

8月26日、与論町で糖業振興会生産振興大会が開催されました。与論町の基幹作物であるさとうきび生産において生産者・関係機関が一同に介し生産意欲の向上に努めることを目的としており、6年ぶりに開催されました。大会では、さとうきび生産者表彰の他、労働力が不足する中、さとうきびで儲けるための研修会などが開かれました。安定したさとうきび生産に向け、農業普及課は引き続き支援を行います。



（３）実行委員会設立による食育・地産地消研修会を開催

ＪＡあまみ和泊・知名女性部、両町生活研究グループ・食生活改善推進員協議会、はるあぐの会、スマイル＆フレッシュの代表による実行委員会を設立し、千葉しのぶ氏を講師に食育・地産地消研修会を開催し延べ110人が参加しました。9月5日の実習は沖永良部の伝統野菜「しょう（夕顔）」と「ムジ（田芋の茎）」の郷土料理づくりを行い、6日の講演会は生産現場の現状と朝食の重要性を改めて考える機会となりました。これからも交流を図り、食育・地産地消推進につなげていきます。



（４）外国人を対象とした農作業安全講習を実施

9月17日、和泊町手々知名で農業大学校主催の技能実習生などの外国人を対象とした農作業安全講習会が開催されました。同講習会は、使用する機械・設備の危険箇所や使用資材の有害性を労働者に周知することを目的としました。説明は受講生の母国語に合わせたベトナム語、インドネシア語で記載された資料を用いて行われました。受講者は母国語で記載された資料の使用により、専門用語などの難解な用語についてよく理解ができたようでした。農作業事故防止に向け、農業普及課は安全指導を行っています。



（５）9月期子牛セリ市 喜ばしい高値結果

9月期の子牛セリ市が、1日与論市場から始まり、1頭平均579,876円（税抜）と前回7月比47,271円高で取引されました。出荷された子牛は、発育が良く、腹づくりもしっかりしたものが多く、購買者から高い評価を受けていました。2日、3日の沖永良部市場も573,726円（税抜）と前回7月比22,575円高で推移しました。他市場で下落がある中、喜ばしい結果であり、今後も購買者が求める商品性の高い子牛づくりを指導していきます。

(6) 地域計画見直しに向けた話し合い活動を実施

将来の農地利用の姿を明確にするため、和泊町、知名町、与論町の全集落において、関係機関・団体及び農業普及課が参加し、7月から9月に地域計画の見直しに向けた話し合いが実施されました。昨年策定した地域計画や目標地図を確認し、地域農業のあり方について検討しました。今後も毎年継続して話し合いを行い、担い手への農地集積等の計画を実現する支援を行っていきます。

(7) さやいんげんとにがうりの生産者がセグロウリミバエ対策を学ぶ

9月10日、JAあまみ与論セリ市場でさやいんげんとにがうりの栽培研修会を開催し、約70人が参加しました。研修会では今問題となっているセグロウリミバエの対策を重点に防虫ネットや農薬の活用、出荷時や栽培後の残さ処理の対応について説明しました。室内研修後は防虫ネット設置見本を見ながら、防虫ポイントを学びました。参加者からは不妊虫活用の要望や出荷に対する不安の声があがりました。10月からは植付けが始まるので、引き続き関係機関一体となった対策・支援を行っていきます。

(8) 耕畜連携の改善に向けて検討会を開催

9月19日、与論町役場でさとうきび・繁殖牛農家と関係機関12名参加して耕畜連携の改善に向けて検討会を開催しました。今年度の耕畜連携の農家間での連絡体制・飼料の栽培経過等について意見が出され、堆肥活用方法や雑草対策、ハカマロールの活用について協議し、雑草対策では実証ほを設置して解決することとなりました。10月下旬から耕畜連携参加農家募集が始まる計画となり、連携面積拡大に向け引き続き支援していきます。

(9) 知名町花き振興会総会で新規栽培者支援策や安定販売対策を検討

9月11日、JAあまみ知名事業本部にて会員、関係機関、県外7市場の担当者等、総勢50名超が参集し、標記総会が開催されました。花き生産功労者やフラワーコンテスト入賞者への表彰伝達後、議案の審議が行われ、新規栽培者への支援方策、値崩れ防止のための検討会開催の要望等、活発な意見交換が行われました。市場からは3月彼岸以降の安値要因の情報提供と、産地の栽培情報がほしいとの要望が出されました。普及課は強い花き産地作りのため今後も関係機関と連携し支援します。

(10) 花き専門農協の令和6年度総会が開催される

9月24日、和泊町やすらぎ館で沖永良部花き専門農協総会が開催され、約60名が出席しました。令和6年度は夏季の高温や11月の大雨で出荷量が減少し、3月彼岸までは高単価に支えられましたが、その後は単価安となり出荷額は前年比93%にとどまる結果となりました。総会後は九州農政局窪山参事官が講演し、参加者は技術向上や情報発信による消費マインド変革の必要性を共有しました。普及課は今後も「儲かる花き経営体」の増加をめざし、関係機関と連携して支援します。

(11) 令和8年産「咲八姫」栽培に向けて検討会を開催！

9月8日、花き専門農協会議室（web併用）にて令和7年度「咲八姫」栽培検討会を開催し、生産者5名、関係機関9名が参加しました。栽培計画の相互検討を行い、作型毎の出荷予定本数について示し、出荷ピークについては出荷時期の分散や新たな販路開拓について促しました。現時点で沖永良部の令和8年産「咲八姫」の定植球数は約65,000球を見込んでおり、3月中旬～4月下旬に出荷が予定されています。今後は定期巡回指導や目揃い会の開催等を行い支援していきます。

(12) 経営者クラブ島内研修会を実施

9月9日、経営者クラブ（沖永良部・与論支部）の現地研修会を実施し、4名のクラブ員が参加しました。自作機械を活用して省力化を図っている1法人と、夏の栽培品目の中で、高齢者でも栽

培可能な唐辛子を導入して省力化を図っている 1 法人で現地検討を行いました。参加者は、これからの人手不足の解消に向けたヒントを得たようです。現地検討後の交流会でも活発な意見交換が行われ、これからの沖永良部農業の発展を誓いました。当課では今後も組織活動を積極的に支援していきます。